2023年度第4回執行理事会議事録

日程：2023年10月14日（土）13:00-17:00【WEB会議】
出席： 岡田　誠，星　博幸，中澤　努，緒方信一，内尾（保坂）優子，内野隆之，狩野彰宏，亀高正男，小宮　剛，坂口有人，高嶋礼詩，辻森　樹，松田達生，矢部　淳，山口飛鳥
陪席説明：桑野太輔（若手活動運営委員会）
監事：山本正司，岩部良子
欠席：杉田律子 尾上哲治，加藤猛士
事務局　澤木
＊定足数（過半数：10）に対し，執行理事15名の出席
＊前回23-3議事録案は，本執行理事会にて承認された．

報告事項

１．全体的報告

・ 9 月 21 日付にて 2024年度代議員および役員選挙の告示を行い，オンライン選挙システムにて代議員選挙は，10 月 23 日（月）10時より 11 月 20日（月）17時まで立候補の受付を行う．ニュース誌 9 月号とホームページに，実施要領とスケジュールが掲載されている．また，選挙システムのテストランを実施中．現時点では問題なし．

2．運営財政部会（亀高・加藤）

1） 総務委員会

＜共催・後援依頼，他団体の募集，連絡等＞

・ 石油技術協会より令和 5 年度秋季講演会(11/8；東京大学小芝ホール)への協賛依頼があり，承諾した．
・ 第61回アイソトープ・放射線研究発表会（2024年7月；日本科学未来館）への参画依頼があり，後援（広報協力，地質学会会員の発表可）として承諾した．
・ 蒲郡市生命の海科学より，第14回 地球惑星フォトコンテスト入賞作品展（12/2-2024/3/3）へ共催依頼があり，承諾した．
・ 山田科学振興財団 2024年度研究援助候補者推薦依頼があった（2024/2/29締切，学会締切2/1）→【ニュース10月号，geo-flash掲載】
・ 第65回藤原賞受賞候補者推薦依頼があった（12/15締切，学会締切12/1）→【ニュース10月号，geo-flash掲載】
・

＜会員＞

１．今月の入会者（正会員3名）
一般会員（1名）宮本昌幸
学生会員（2名：単年度1，3年パック1）長田美里，長尾優樹
２．今月の退会者（一般会員1名）

小松原　琢
３．今月の逝去者（名誉会員１名）
坂巻幸雄（逝去日 2023 年 8 月 23 日）
４．2023 年 9 月末会員数
賛助：30，名誉：37，ジュニア：3，正会員：3211［一般 2152，シニア 847，学生 212］合計 3281（昨年比-22）．会員数の減少傾向が抑制されつつあり，これまでの対策の効果が見られる．
＜会計＞
特になし
＜その他＞
・　選挙システム：第 2 回運用テスト（理事選挙）を実施中．
・　干渉色下敷の再作成を進めている．

3．広報部会（内尾・松田）

1）広報委員会（内尾）
・　学術大会時のプレスリリースの重要性を踏まえて今後もリリースを行っていく．インスタグラムは学術大会から運用を少しずつ開始した．今後も情報を分かり易く，継続して追加更新していけるように進めていきたい．
・　学会 HP の構築については，複数業者より概算見積や情報収集を進めている．250 万円程度の回答の業者が有るが，その他の業者にもヒアリングしていく．次の段階で見積をとり，より検討を具体化させる．

4．学術研究部会（辻森・尾上・高嶋・山口）

1）行事委員会（高嶋・山口）
・　2024JpGU プログラム委員として，行事委員会から 2 名を選出した（正：松崎松崎賢史，副：宇野正起）
・　日本地質学会第 130 年学術大会（京都大会）
大会参加者総数：783（会員 657，非会員 126）※ジュニアセッション，業界説明会参加者を除く．このうち，学生会員 158，非会員（院生・学部生）67　参加者数は昨年度比約 1.5 倍．
懇親会参加者：約 150
講演数：501（口頭 271，ポスター230），講演キャンセル：9，発表者変更：2
巡検（ワークショップ含む）：9 コース中 8 コースが実施された．１コースは最小催行人数に満たずに中止．巡検参加者数：124
CPD 参加証明希望者：29
保育料補助申請：2（内訳：3 日間１名，1 日間１名）
業界説明会参加学生：（対面）27 大学 78 名，（オンライン）15 大学 26 名．
9/28 京都大会の反省会を実施した．議事録は別紙のとおり．
学生優秀発表賞：39 件
地質情報展：参加者約 800 名．学術大会と会場が近接しており，大会参加者の来場も多く見られ，

盛況に行われた.

・ 2024 山形大会：

「市民講演会『樹氷と出羽三山を知る』および地質情報展 2024 やまがた」に対して 2024 年度研究成果公開促進費の申請を行った．審査結果は，来年 3 月（正式通知は 4 月 1 日）．また，巡検コース最終案が提出された（→審議事項へ）

・ 2025 熊本大会：

熊本大会 LOC が決定した．実行委員長：松田博貴，事務局：(主）小松俊文・(副）田中源吾，巡検担当：湯口貴史

・ ショートコース：

第 9 回ショートコース：応力逆解析法を 10/22（日）に開催予定．参加申込締切 10/16.

2） 専門部会連絡委員会（尾上）

・ 特になし

3） 国際交流委員会（辻森・岡田）

・ IGC 韓国 LOC（9/1 付）および大韓地質学会（9/2 付）からの連絡に対して，10/5 にそれぞれに返信を行った.

4） 地質標準化委員会（内野）

特になし

５．編集出版部会（狩野・小宮）

1）地質学雑誌編集委員会（小宮）

(1) 編集状況報告（2023 年 10 月 10 日現在）

・ 2023 年投稿論文：48（昨年比-11）［内訳］総説 1（和文 1)，論説 20（和文 20)，ノート 3（和文 3)，レター6（和文 6)，報告 6（和文 4，英文 2)，フォト 2（和文 2)，討論 1（和文 1)，巡検案内書 8
査読中：29，受理済み：3

・ 129 巻：公開済み 35（460 ページ)，入稿・校正中：11

(2)その他

・ 地質学雑誌過去論文の Abstract の OCR 作業についての検討状況：全文 OCR（校正有り．無し)，英文要旨のみ OCR などいくつかのパターンで見積を取った．過去分の J-STAGE 公開論文は，要旨がテキスト化されているものや画像のままのものが混在している．経費，作業量などを正確に見積もるために，過去分の公開状況を精査する必要がある．引き続き，確認・検討を進める.

・ 京都大会で編集委員会ランチョンを開催した．投稿のメリットを高めるためにも，Scopus 等データベースへの収録について積極的に検討を進めていきたい.

2） Island Arc 編集委員会（狩野）

(1) 編集状況報告

・ 出版済み 28 編．受理済み 4 編．2023 年投稿数 47 編．IF：0.65（漸次上昇中）

(2) その他

・ 現編集体制任期は 2023 年 12 月まで．後任体制を検討中.

3） 企画出版委員会（松田）

・ 特になし

６．社会貢献部会（坂口・矢部・内野）

1)　地学教育委員会（坂口）

・　京都大会ジュニアセッション報告：16 校 25 件の発表があり，優秀賞 7 件，奨励賞 4 件を選考した．

2)　地質技術者教育委員会（坂口）

・　京都大会業界説明会報告：

➢　（9/18 対面企画）32 社が出展．学生の参加：27 大学 78 名，延べ訪問数：217 社．1 社当り 3.2 人の訪問．（9/22 オンライン企画）35 社が出展．学生の参加：15 大学 26 名，延べ訪問数：109 社．オンラインの学生参加が少なく，残念であった．次回以降の広報に注力するとともに，開催時期についても検討する．

➢　対面出展のニーズが高く，地質系企業側からの本企画に対する期待は大きい．

➢　キャリア教育の一環として Jr.セッション参加等の高校生へ向けた業界説明会も開催したい希望がある．セッション日程等も考慮して，今後前向きに検討したい．

3)　生涯教育委員会（矢部）

特になし

4)　地震火山地質こどもサマースクール（星）

特になし

5)　地質の日（矢部）

特になし

7．その他執行理事会の下に設置される委員会及び組織

1)　利益相反マネージメント委員会（中澤）

特になし

2)　若手育成事業検討 WG（内野）（→審議事項へ）

特になし

3)　表彰制度検討 WG（中澤）

特になし

8．理事会の下に設置される委員会

1)　ジオパーク支援委員会（矢部）

特になし

2)　地学オリンピック支援委員会（坂口）

特になし

3)　支部長連絡会議（杉田）

・　京都大会にてランチョンを開催した．支部発行の著作物の著作権とデータの管理について，地質学雑誌等の学会出版物同様，著作者から著作権譲渡同意書を提出していただく必要性と，著作物の管理方法について説明した．また支部の活動報告提出のお願いなど事務連絡を行った．

4)　地質災害委員会（松田）

・　関東支部と地質災害委員会共催で「関東地震 100 年関連行事」として講演会（zoom）を 9 月 30 日（土）に開催した（参加者約 110 名）．また 12 月 2 日（土）に震生湖巡検（案内者　千木良 雅弘氏）を予定している．観察場所は震生湖周辺および市木沢の中（神奈川県秦野市今泉）．詳細はホームページに掲載済み．

5）名誉会員推薦委員会（星）

・　階層別委員の人選を開始し，11 月の執行理事会までに内諾を得て，12 月の理事会に上程予定．

6）各賞選考委員会（中澤）

・　2024 年度学会各賞候補者の募集を開始した（ニュース誌 9 月号，HP に掲載）．12 月 1 日（金）締切．

7）ジェンダー・ダイバーシティ委員会（辻森）

特になし

8）連携事業委員会（中澤）

特になし

9）法務委員会（中澤）

特になし

10）若手活動運営委員会（星）

・　学術大会時の「学生・若手のための交流会」開催について（→審議事項へ）

9．研究委員会

1）　南極地質研究委員会（委員長　大和田正明）

特になし

４．法地質学研究委員会（委員長 川村紀子；杉田）

特になし

10．その他

特になし

審議事項

1.　各賞選考に関する質問状について

海洋地質部会長，構造地質部会長より執行理事会宛に，各賞選考について，①選考結果の通知（落選の場合），②選考理由の情報開示，③選考プロセスの透明性と公正性に関する質問があった．これを受けて指摘事項に関して議論を行った．質問と回答（予定）は以下の通り．

①　今後選考結果の通知（落選の場合）行う予定があるか：推薦者には結果のみ簡潔に通知する方向で検討する．

②　落選理由を推薦者に開示する予定はあるか：落選理由の開示はこれまで同様行わない．

③　選考プロセスの透明性と公平性のための取り組みは行われているか：各賞選考規則第18条に則り，各賞選考委員会には「選考過程」を文書で理事会へ報告いただく．

2. 研究奨励金規則一部改正（使用期間の延長可）について（内野）

病気等やむを得ない事由で研究を中断せざるを得ない場合は，年度内に延長願を提出し，執行理事会が承認した場合，最大 2 年間延長できることとした．若手研究者育成のために，個別の事案にも柔軟に救済対応を行う方針を確認した．

3. 学術大会時の「学生・若手のための交流会」開催について（桑野委員）

若手活動運営委員会より山形大会での交流会開催についての審議依頼があった．若手交流会は参加人数も多く，会期中（ランチョン，夜間小集会）では時間の制約があり，十分な会合開催できないため，大会前日に開催したい．将来を担う若手の大切な交流機会であることを鑑み，例外として学術大会の企画の一部として前日開催を承認した．会場費は年会経費に含めて処理する．今後詳細を若手委員会で詰める．

4. 2024山形大会巡検コース案について（高嶋）

全７コースを計画されているが，コーステーマに少し偏りがある．各地質時代・地質構造・火成岩・変成岩・堆積岩等網羅的にテーマ設定されていることが望ましいので，アウトリーチ巡検の日程（土日開催）も含めてLOCに再考をお願いすることとした．

5. その他

東北新幹線で「地質調査会社」の男性による薬品漏れの事案があった件について，会員に向けての注意喚起，コメントを公表した方が良いのではないか，と会員から意見が寄せられた．現時点では，マスコミ報道以上の情報を得ていないので，学会として適切に判断できない．対応は保留とする．

監事コメント

（山本監事）来年度の代議員・理事の選挙について，新しいオンラインシステムによる選挙となるが，不正に対するチェック体制にも十分に留意して頂きたい．

（岩部監事）山形大会巡検について，会員の専門は多岐にわたるので，バランスよくコーステーマが設定されていれば，参加しやすくなり大変良いと思う．引き続き検討していただきたい．また各賞選考の質問状に関する審議で，コミュニケーションの重要性についても意見，議論があったが，会員からは様々な要望や意見が寄せられる．応えらない場合でも学会として真摯に分かり易い回答，対応を心がけて頂きたい．

以上

2023 年 11 月 11 日

一般社団法人日本地質学会
会長（代表理事）岡田　誠
署名人　執行理事　中澤　努